

2003年 5 月 30 日発行 (隔月刊)

Shinjuku 連絡会 Ikebukuro 連絡会 NEWS VOL.35



∞∞∞今号のメニュー∞∞∞

特集・春の要求行動

- 9回目の新宿メーデーが開催されました。
- 東京都へ自立支援事業の改善を求めて交渉を行いました。
- 国の基本方針をめぐり緊急交渉と集会を行いました。

●活動報告

○路上トピックス

財政報告4月期速報
2002年度財政報告
ボランティア募集!

定価100円 (カンパ込み)

9年目の 新宿メーデー が開催されました。



今年のメーデーは初夏を思わせる心地良い気候の中、新宿300名、池袋45名を筆頭に山谷、上野など全都各地の仲間、支援の方々を含めると総勢450名もが集まってくれ、大盛況と熱気の中、新宿柏木公園で開催する事ができました。

メーデーに先立ち、新宿連絡会、池袋連絡会は連盟で東京都に要望書を提出、11日から毎週、都庁前で座り込み集会などを最大220名の部隊で続け、東京都との交渉を続けながら、多くの仲間や市民にメーデーの取り組みへの支援を訴えて来ました。昨年の自立支援法制定、そして、自立支援事業に関する様々な提言や改善を重ねて来た新宿、池袋の仲間の隊列は健在どころか、多くの支持を得て、昨年以上の結集が勝ち取れ

たとえます。

メーデー集会では、各地の仲間の運動団体が変わる変わるに発言。新宿連絡会の仲間は「昨年仲間が勝ち取ったホームレス自立支援法による基本方針がどのような内容になるのかの瀬戸際の情勢である。国に野宿者枠の公的就労枠を確保させ、都区の自立支援事業をより拡大、拡充させるため頑張ろう」と発言。大きな拍手で確認されました。

そして、長蛇の列の新宿、池袋の部隊が先頭に、都庁へのデモ行進。通行人への啓発もかねてホームレス自立支援法全文掲載のチラシを手渡ししながら元気よく都庁の前まで。都庁前では全員が立ち止まり、代表団5名を拍手の中送り込みました。

解散は中央公園。司会から「22日の厚生労働省前座り込みと交渉を、今度は全国の仲間と合流してたたかおう」と行動提起がなされ、晴れ晴れとしたメーデー行動が終了しました。

参加された方々、そして支援して下さった方々、どうもありがとうございました。



特集・2003年春の要求行動



<5月3日仲間への報告チラシより>

仲間たち。

第9回新宿メーデー参加してくれた仲間、参加できなかったけれど呼びかけ等に協力してくれた仲間、どうもありがとう！

おかげさまで、新宿三〇〇名の部隊を筆頭に、全都四五〇名の結集で大きな取り組みが出来た。東京都との交渉も大きく前進した。そして何よりも仲間のでっかな団結の輪を社会に示す事が出来た。この力を維持しながら、今度は国（野宿の仲間の雇用対策枠の確保）を相手にした全国行動へと突き進んでいこう！

昨年来のたたかい、そして4月から開始された東京都との交渉、行動の力で、東京都、特別区は現行の自立支援事業の改善を迫られ、現在、7月実施の改善計画を立てている。これまで認めていなかった自立支援センターへの再入所（リピーター）も認め、また技能講習制度などの新しいプログラムを緊急一時保護センター、自立支援センターに導入し、また、自立支援センターから仕事に通う仲間の「長期コース」＝グループホームも少ない枠ながら新設し、かつ今年度も都営住宅枠を20戸（これまた少ないものの）確保し、更に、常雇いオンリーではなく、他の就労の道も探っていく事も検討し始めた。また、野宿者向けの公的雇用対策枠の必要性を認める発言まで交渉の中では飛び出した。

俺たちが要求して作らせた自立支援事業の本格実施から早3年目、ややもすれば硬直化しつ

つあった自立支援事業を改善させるに至ったかも、察や路上の仲間が「もっと使い易いようにしろ」と要求してきたからこそである。東京都がついに改善に踏み込んだ事を評価し、引き続き、自立支援事業を路上脱却の手段として徹底して使いこなしていこう！

とは言いながらも、先日の新宿区の大田寮受付は20名の募集に一〇九名が並ぶという大激戦である。内容が改善されるのは良いとしても、枠が拡大しないのは大きな問題でもある。生活保護も現在新宿区は二〇〇〇名規模で適用しているものの、次から次へと病気や高齢の生保希望者が殺到している。都区が多少の施策を打ち出した所で、野宿の仲間は次から次へと増え続ける。俺たちが一貫して要望している「野宿にならなくても済む予防策」が今の不景気の時代に張られていないからでもあるし、日雇労働者や、底辺労働者の雇用対策がほとんど機能していないからでもある。これらの課題はもはや国レベルの対応を進めさせなければ対応できない。昨年全国の仲間が勝ち取った「ホームレス自立支援法」を活用し、野宿者向けの雇用対策枠を確保させるに留まらず、日雇労働者など雇用確保による予防策を明確にさせるなど国に大胆な基本方針を作らせなければ、仲間は益々急増し、自立支援策や生活保護を活用したくてもチャンスは益々少ないものになってしまう。

今月22日にはそのための厚生労働省に対する行動もある。メーデーの力を継続しながら、今度は国へ攻め上ろう。



4月、5月二回
に亘り東京都福
祉局と交渉を行
いました。



新宿連絡会と池袋連絡会は連名で東京都福祉局に自立支援事業の改善についての申し入れ書を4月9日提出。それに基づき当事者も含めた代表団による交渉を4月18日、5月1日と行い、東京都福祉局自立支援事業担当課長との議論を深めてきました。交渉結果概要にあるよう、東京都サイドも自立支援事業の改善の必要性を認めており、共通の認識をベースに建設的な議論ができたと考えています。東京都は国の基本方針を睨みながら「実施計画」策定準備を早々に始めていくとのことで、その点も今後注目しより議論を深めていきたいと思えます。

交渉結果概要

【要望項目①】

①人道的な見地から昨年度行われた厳冬期対応宿泊事業(大田寮 2週間無料宿泊事業)を本年度も継続して実施する事。そのための検討を早期に実施する事。

【回答】

特別事業としてではなく、緊急一時保護センターの冬場の利用方法として各区が現場のニーズを把握して様々工夫していけば今後も実施は可能である。東京都としても冬場の対応は必要であると考えている。

【要望項目②】

②計画されながらも未実施である自立支援センター渋谷寮、および自立生活訓練ホーム(グループホーム)を早期に設置する事。また、その目処を早急に出す事。

【回答】

渋谷寮は今年中の開設を計画している。グループホームは「仕事の継続を目指す」形(自立支援センターの入所期間の延長と云う形)でのホームを今年度上半期に10名規模でまずは実施していく予定である。

【要望項目③】

③自立支援センターへの再入所(リピーター)を無条件で認める事。

【回答】

都としても、せっかく自立したのに何らかの事情があって路上に戻って来た方のセンター再入所を認めないのはおかしいと思っている。再入所を認める検討を特別区と現在行っている。6月までには結論を出し、早期に容認して行く予

特集・2003年春の要求行動

【要望項目⑥】

⑥巡回相談センター等の新規事業を早期に実施する事。

【回答】

退所者情報を持つ自立支援センターを受託している法人に現在依頼をしている所である。東西2個所に設置し、アウトリーチや自立支援センター退所者のアフターケアに当たらせるつもりである。

【要望項目⑦】

⑦生活保護適用にあたっては適切な運用を行う事。中間施設への「入れっぱなし」状態を放置せず、生保内での就労支援等、自立支援を強化する事。

【回答】

「入れっぱなし」であることは認識している。中間施設からいかに居宅確保につなげるのかが、大きなテーマであることも認識している。各区ごとの対応の差の問題でもあるが、引き続き指導をしていきたい。

定である。

【要望項目④】

④緊急一時保護センター、自立支援センター内における技能講習制度、トライアル雇用制度など厚生労働省が予算化してある就労支援強化策を早期に実施する事。また、高齢者等の常雇就労困難者等を対象とし、既存の公的就労事業などを活用した就労自立支援のモデルケースを検討する事。

【回答】

技能講習制度などは7月から実施予定で調整を進めている。常用雇用オンリーではなく、それを基本にしつつ別の就労による道も探していきたい。野宿者向けの公的雇用枠の必要性については認めている。国の基本方針を見つつ、産業労働局と協議し、東京都の実施計画にどこまで盛り込めるのか今後検討していきたい。

【要望項目⑤】

⑤自立支援センターからの住宅確保支援策として、本年度も都営住宅等の公営住宅を自立支援センター枠として確保する事。

また、公的な保証人提供の仕組みを早期に検討する事

【回答】

自立支援センター用の都営住宅枠は今年も20戸確保した。大家への啓発活動なども実施して行き住宅確保がスムーズにいくよう努力していきたい。保証人提供の仕組みについてはどのように出来るかも含めて検討中である。



国の基本方針 をめぐる緊急 の交渉と集会 を行いました。



5月22日、昨年暮れ以来の厚生労働省前行動をやってきました。ホームレス自立支援法にもとづく基本方針が6月までに策定されるとの見通しから逆算しての基本方針に仲間の声を反映させる最後のチャンスとばかりに設定されたこの行動。新宿、池袋の仲間総勢150名の仲間を筆頭に、大阪からは大型バス「勝利号」で多くの仲間が今回も駆け参じてくれ、200名を越える仲間、支援者、地域で云えば神戸、大阪、名古屋、静岡、神奈川、東京、千葉からの全国部隊で行動を開始することが出来ました。

午前10時、選抜された代表団10数名が「代表団頑張れ！」のシュプレヒコールの中、厚生労働省の中に入る。残った部隊は厚生労働省を取り



り囲むように座り込みを続ける。

しかし、2時間半におよぶ代表団による交渉で明らかになった事は、当初6月までにまとめる筈の基本方針が、未だ骨子すら出しておらず、結局は夏まで延びてしまった事。そのため交渉

は厚生労働省側も国土交通省側も旧来の主張を繰り返すだけで目新しいものは当然ながら発表されない。各省庁側も議論がまだまだ深められていないようで、質問に対する返答もそれぞれ歯切れが悪い。基本骨子すら決まっていなければ、当然役所側の返答は旧来の見解を繰り返すだけで、完全にタイミングを外してしまった交渉であった。それでも交渉団は、仲間の声として野宿者向けの「就労対策」「雇用対策」こそが期待されているものであって、実効性のある施策を基本方針の中に盛り込んでもらいたいと訴え、長丁場の交渉を終えて行った。尚、法律制定に尽力して頂き、かつこの交渉をセッティングして頂いた民主党プロジェクトチームの鍵田節哉、山井和則、近藤昭一衆議院議員が同席し、法制定者の立場から法律の解釈問題等について貴重な意見も頂けた。

昼からは、この交渉報告をかねて星塚会館で緊急報告集会。この集会には発言頂いた日本共産党の瀬古由紀子衆議院議員を始め、民主党、自民党の秘書の方も参加して頂いた。

交渉団による交渉報告も芳しい成果がない中で苦悩の表現を時には見せたが、「まだまだこれからである」「知恵を絞って何度でも立ち向かおう」とまとめてくれた。

6月にもう一度霞が関への行動を立て、基本方針の中に実効性ある就労対策を盛り込ませるためにこれからも頑張ろうと、司会の提起の後、団結ガンバローを高らかにとどろかせ、行動を終えて行った。

特集・2003年春の要求行動

5.22緊急行動要請文

私たち野宿者に関わる全国の団体は一昨年以來、国が積極的にホームレス対策、なかんずく、野宿化の大きな原因でもある雇用対策の強化を制度的に明確にするよう全国で行動を起こして来ました。「仕事が欲しい」「もう一度やり直したい」との全国当事者の声と何處にもわたる国会前での座り込み、請願デモなどの大衆行動の成果もあり、ようやく昨年夏全会派一致で「ホームレスの自立の支援策等に関する特別措置法」が制定されました。

この法律では「ホームレスの自立の支援等に関する施策については、ホームレスの自立のためには就業の機会が確保されることが最も重要であることに留意しつつ、前項の目標に従って総合的に推進されなければならない」と明記され、国が責任を持って野宿の予防策、そして野宿から脱する具体的な支援策を地方自治体、関連団体、市民と協力しながら実施しなければならない事とされています。

法制定を受け、今年度は技能講習制度や試用雇用制度など当座に必要な新たな施策が予算化され実施されていますが、「自立支援法」による国の「基本方針」や地方自治体の「実施計画」はまだ策定されておらず、本格的な法の稼働はこれからの予定です。

私達は全国の都市で深刻化する野宿者の窮状に日々接している立場から、野宿者の自立に



向けた具体的な施策の緊要性、とりわけ雇用対策の必要性を痛感しております。また、現在失業率が統計史上最悪の数字となり、企業倒産も増えるなどし、新たに野宿に至ってしまう人々が建設業を始め様々な産業より排出される危険性も具体化して来ています。野宿に至った人々がもう一度やり直せるための雇用の提供などの緊急対策、雇用に結びつく自立支援事業と同時に、野宿を防止する観点から日雇労働者など不安定雇用にいる人々に対する防止策としての雇用の提供もまた必要であると考えます。

昨年制定された「自立支援法」を理念だけに終わらせるのではなく、全国の失業者や不安定就業者が野宿を余儀なくされなくても済むような社会を構築するために、「基本方針」においてはより実効性のある制度設計が描かれなければならないと考えます。そして総合的な自立支援策を考えた場合雇用対策が占めるウエイトは極めて重要です。

6月までに発表すると云われている基本方針策定が大詰めを迎えた今日、私達はより実効性のある基本方針にすべく、全国の仲間が再び東京に集い声を挙げています。

心ある市民の皆様、そして議員の方々がこの集いに賛同され、参加もしくはアピールを是非とも寄せて頂きたく要請致します。

お忙しい中、また緊急な要請で大変恐縮ですが、私達の主旨を理解して頂き、協力を宜しくお願い致します。



活動報告

団結花見新御苑
大盛況！

メーデー前都庁
前連続行動た
たかう。

池袋で医療相談を開始！

パトロール強化！神田川周
辺、箱根山地域でも実施

板橋寮見学

日常活動

◇団結花見大盛況！150名が 新宿御苑に結集◇

3月29日、連絡会恒例のお花見が、新宿御苑で開催されました。今年は早咲きながら御苑の緑の中で一段と映える大きな桜の木の下でブルーシートを敷き、宴を開くことになりました。「もやい」とNPO新宿との合同の花見とは云え、なんと150名もの仲間がこの日を楽しみに集まってくれ、わいのわいのがやがやと春の訪れを楽しみ続けました。人数が人数だけにお酒はあまり飲めなかったけれど、手作り料理を作ってくれた仲間も大勢いてくれ、喧嘩もなく楽しい一日が過ごせました。



◇メーデー前段行動3連続都庁前 行動行われる◇

メーデー前の4月11日からこの春初めての都庁前集会、情宣活動を連続して行いました。初回が150名、最終的に最大220名の仲間の結集で新宿におけるメーデーへの気運を盛り上げて来ました。東京都との交渉も同時に進め、仲間へリアルな情報を集会で提供する事もできました。

◇池袋の炊出し時に医療相談会を 開始しました◇

4月26日の池袋の炊出し時から、新宿連絡会医療班の協力を得て、池袋でも医療相談会を開催することが出来るようになりました。これまで新宿の医療相談への引率を行い対応していたのですが、これからは多くの仲間が診察が受けられる地元開催なので期待をし、また一日でも長く継続できるよう地道に続けていきたいと思えます。医療従事者、医療関係の学生さんなども飛び入り歓迎ですので、ボランティアの方もよろしくねがいます。

◇神田川、箱根山地区パトロールを開始◇

暖かくなり新宿の地域でも仲間の数が多くなりました。連絡会の日常活動のパトロールは、中央公園、戸山公園、新宿駅を中心にその周辺部を行ってきましたが、それぞれのパトロールコースで対応できない新たな地域も生まれて来ています。

これまで有志で回ってもらっていた神田川周辺（高田馬場駅西口から東中野付近までの神田川周辺地域）、これまで特別清掃の監視のみだった戸山公園（箱根山地区）のテントの仲間への地域のパトロールを4月から日常活動に組み入れ取り組みを強化しています。

神田川周辺で平均60数名、箱根山で41件のテントの仲間と出会っています。

◇板橋寮開設に伴う一般公開に行ってきました◇

緊急一時保護センター板橋寮の開設に伴う一般公開に行ってきました。埼京線浮間船渡駅から歩いて5分。荒川沿いの簡素な住宅街の中に板



橋寮はあります。大田寮と比較しても、設備面はかなり向上しており、新設される度に寮生意見を反映された施設になって行くのは頼もしい限り

です。2段ベットの居室スペースもロッカー、小机が設置されておりもちろんカーテンもあるのでプライバシーは最低限守れる空間となっています。

難点を云えば、板橋寮は自立支援センターの作りになっており、現行の緊急一時保護センターの仕切り（就職活動ができない）では宝の持ち腐れになってしまわないか心配であります。

◇日常活動◇

連休から連休明けにかけて新宿、池袋の地では新しく野宿に至る仲間の数が急増しています。他方、高田馬場など建設日雇市場が急激に冷え込み、窮乏する仲間の数を増やし続けています。新宿の炊出しでも実数が700名を突破しそうな勢いで増え続けています。連絡会では急ぎよ釜数を増やし対応を続けています。仲間の急増は健康面や衛生面でも心配な事です。医療相談、福祉行動、パトロールなど仲間の命を守る基礎活動も強化しているところです。



路上トピックス①

ホームレスの実態に関する全国調査報告書が公表される

3月26日、厚生労働省社会・援護局地域福祉課より、ホームレス自立支援法にもとづき、本年1月～2月に全国で実施された実態調査に関する報告書が公表されました。

実質的に全国初の統一調査となった人数調査では581市区町村で25,296名が確認されおります。最もホームレス数が多い都道府県は大阪府（7,757人）東京都（6,361人）愛知県（2,212人）の順となっております。市区では大阪市（6,603人）東京都23区（5,927人）名古屋市（1,788人）川崎市（829人）京都市（624人）福岡市（607人）横浜市（470人）北九州市（421人）の順となっております。

他方、2163人から回答を得られた生活実態調査では、平均年齢55.9歳、生活している場所が決まっている者が84.1%、ここ一年未満で路上生活に至った者が30.7%、64.7%の人が収入のある仕事（廃品回収等）を行い、身体の不調を訴えている者が47.4%、福祉事務所へ相談へ行った事のある者が33.1%、シェルター利用希望者が38.7%、自立支援センター利用希望者が38.9%、きちんと就職して働きたいという者が49.7%等となっております。

全国調査と言う事もあり、調査結果の分析は専門的に必要なのでしょうが、数にしても、生活実態調査結果にしても「思った通りの」結果が現われていないと言う印象を受けます。報告書でも認めていますが、「目に見える」定住型中心の調査に偏ったが故の、ある種の傾向がこの報告書にはあるようです。そう云う傾向を差し引いて見ていく必要があるとは思いますが。

路上トピックス②

景気の影響か？新宿等各地で野宿者急増

りそな銀行が「国有化」され金融危機が叫ばれているからではないでしょうが、ここ1-2週間でこと新宿の地では野宿の仲間が溢れかえっています。16日の深夜の時間帯で新宿駅西口地下広場だけで410名と例年をはるかに凌ぐ新しい仲間の流入が見受けられます。18日の中央公園炊き出しにおける実数も700名近くとこれまた例年にない急増を示しております。

新たな流入者の多くは地方などから失業者が多く、他方で病院や施設から（さまざまな理由で）出て来てしまった高齢者、生活保護施設から出て来てしまった病弱者も見受けられます。これらの多くの人々が仕事や生き甲斐を見いだすために新宿に流れてきますが、新宿においては、とりわけ建築日雇労働市場がほとんど動いていない状況で、これまで何とか週に数度働きながら自活生活をしていた戸山公園のテント組でさえ炊き出しに並ばざるを得ません。

昨年もゴールデンウィークにかけて野宿者数が増え、どうなることかと思いましたが、ちょうど同時期に都内および周辺に大量に設置された民間宿泊施設(生活保護費を当てにした営利施設のようなのですが…)に吸収された事もあり、急増状況は止みましたが、今年はそのような動きもなく、かつ景気動向が更に深刻化している事もかなりの人々が滞留を余儀なくされると考えられます。

早急なる自立支援対策の拡充が求められているとも言えるでしょう。

新宿連絡会会計報告（2003年4月期速報）

初夏の炊出しや活動のためのカンパ継続を御願い致します！

収入)		支出)	
①炊出し部門寄付	¥21,000	①炊出し事業費	¥75,240
②活動部門寄付	¥3,410	②医療活動事業費	¥0
③通信部門寄付	¥10,660	③パトロール関連費	¥16,716
④その他寄付	¥72,000	④活動関連費	¥20,355
⑤前期繰越金	¥995,908	⑤福祉面会関連費	¥13,442
		⑥自立支援事業費	¥21,350
		⑦教宣活動関連費	¥39,583
		⑧事務費	¥53,893
		⑨池袋関連事業費	¥33,975
		⑩雑費	¥1,240
		⑪次期繰越金	¥827,184
合計)	¥1,102,978	合計)	¥1,102,978

春期の取り組みはおかげさまで順調に進んでおります。この間、衣類、お米などの物品カンパも多く頂いております。ありがとうございます。皆様の期待に応えるべく、今後も多角的な活動を行い、一人でも多くの仲間の路上脱却支援を続けて行きたいと思っております。

(新宿連絡会事務局一同)

路上文芸総合雑誌

ろじゅく

露宿

24号好評発売中！
p38 B5版 500円



未刊の大作「ヤマの幽霊」(下) 静かに幕を閉じる。露宿でしか表現し得ない路上の世界がここにありま。次号いよいよ25号。露宿、力の限り路上に紙面を提供し続けま。

購読申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

路上文芸総合雑誌「露宿（ROJUKU）」（隔月刊）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-32-4-603

TEL/FAX 03-3373-9878/090-3818-3450（笠井）

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp

URL・http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

新宿連絡会2002年度会計（確定版）報告です。ありがとうございました。

収入)	支出)
①緑フォーラムより義援金 ￥2,000,000	①炊出し事業費 ￥714,842
②炊出し部門寄付 ￥208,350	②医療活動事業費 ￥82,894
③活動部門寄付 ￥75,550	③パトロール事業費 ￥308,894
④通信部門寄付 ￥128,290	④その他の活動関連費 ￥238,553
⑤越冬闘争寄付 ￥809,552	⑤福祉面会関連費 ￥180,360
⑥その他寄付 ￥1,067,320	⑥自立支援事業費 ￥112,064
⑦事業収益 ￥4,800	⑦教宣活動関連費 ￥702,008
⑧前年度繰越金 ￥906,917	⑧事務費 ￥558,526
	⑨越冬事業費 ￥912,996
	⑩文化娯楽事業費 ￥135,902
	⑪その他の事業費 ￥1,021
	⑫池袋関連事業費 ￥217,427
	⑬雑費 ￥39,384
	⑭次年度繰越金 ￥995,908
合計) ￥5,200,779	合計) ￥5,200,779

ボランティア募集中!

新宿炊出し（準備・片付け）

毎週日曜 午後6時より7時半

ところ 新宿中央公園

池袋炊出し（準備・片付け）

第2、第4土曜 午後3時より5時

ところ 南池袋公園

医療相談会

第2日曜 午後7時より8時半

ところ 新宿中央公園

第2日曜 午前10時より正午

ところ 戸山公園

パトロール（夜回り）

新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～

神田川周辺 毎火曜 午前10時半～

中央公園 毎金曜 午後2時～

戸山公園 毎水曜 午後6時～

戸山箱根山 月2回水曜 午後3時～

池袋駅周辺 毎水曜 午後9時～

*お問い合わせ先

090-3818-3450（笠井）もしくは、

メールshinjuku@tokyohomeless.com

第10回新宿夏まつりの日程が確定！2003年8月9-10日

新宿中央公園にて！詳細は次号で。

Shinjuku & Ikebukuro 連絡会NEWS/VOL.35

2003年5月30日（隔月刊） 定価100円

編集・発行 新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議（新宿連絡会） & 池袋野宿者連絡会

〒111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館5F

電話・FAX 03-3876-7073 もしくは090-3818-3450（笠井）

カンパ金送付先・郵便振替口座00170-1-723682「新宿連絡会」

メール・shinjuku@tokyohomeless.com http://www.tokyohomeless.com

編集協力・ろじゅく編集室 東京都新宿区西新宿4-32-4-603 http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/